

# 登別駅前を盛り上げよう



## 1. 探求を始めた動機

温泉で有名な登別だが、その駅前商店街は……

- ・人がいない
  - ・営業しているか不明
  - ・駅前に行く理由なし
- 寂しい……  
→盛り上げていこう！！

11 住み続けられるまちづくりを



地域との接続

産業

## 2. 資料

『外国人旅行者の受け入れに関してのソフト面でのサービスは、国際観光地としてこれまでいろいろ取り組みされてきているものの、**いまだ十分なレベルとはいえない。**』

国土交通省北海道運輸局 H24 3月 登別市における外国人旅行者の移動容易化のための言語バリアフリー化調査報告書 より

## 3. 理想のゴール

- ・地元民も観光客も集まるにぎやかな駅前
- ・綺麗で清潔感のある駅前
- ・また行きたくなるような魅力を持つ駅前

**湯の国登別に  
恥じない駅前！**

## 4. FW

FW先:城崎温泉観光協会様 日時:8月23日

Q1.街の整備で心掛けてしていることは？ A1.景観の維持

Q2.外国人旅行者への配慮は？ A2.国籍問わない観光のしやすさ

成果:電話を掛ける力が身についた。

だが探究活動内での施行は難しい。

反省:緊張してしまった。管轄外だった。

課題:駅前を盛り上げる必要性の再確認



←城崎温泉 太鼓橋(登録有形文化財)



校内の429名にアンケート調査を実施

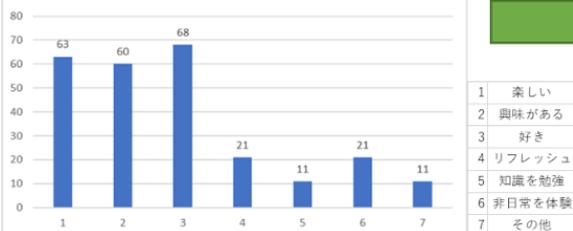
自然体験活動に参加したことがある人



今後、自然体験活動に参加する機会があったら参加したいか。



参加したいと回答した人の理由



**見つけた課題66**  
一般の人に対する森への入り口が狭く、森林環境保全活動に対する活動内容が曖昧で周知されていないのではないかと。

「どのようにしたら、森への入り口を広げ、人を呼ぶことが出来るのだろうか。」

仮説

森が人に与える影響を具体的に分析・発信することで、森に興味を持ってもらうことが、森への入り口を広げることになるのではないかと。

調査・検証 (フィールドワーク)

調査協力場所 苦東和みの森

<場所> 北海道苫小牧市静川

<活動内容>

- 1.月に一度は森づくり!
- 2.林業体験
- 3.森林散策
- 4.海外の方への体験活動実施
- 5.道外からの森のようちえん受け入れ

参考: <https://tomato-nagominomori.jimdofree.com/>

調査協力団体 自然体験指導者ネットワークえんりっと

<活動場所> 苫小牧市の森の中、町の中など

<活動内容>

- ・自然を親子で楽しめるプログラムを企画
- ・小中学校の親子学級レクをはじめ、町内会や企業のイベントなどへの出前講座の実施

参考: <https://ezoclub.jp/pickup/1786/>  
<https://ja-jp.facebook.com/enjoy.nature.life.in.tomakomai/>

【実施日時】2020年 6月20日(土)、7月18日(土)、8月22日(土) 9:00~12:00

【検証】「森で人が実際にできること・やっていることは何か」また「その行動によってどんな成長に繋がるか」を調査し、森から得られるイイ影響を分類する。

【方法】調査対象を森に絞って調査する。協力して下さる団体のスタッフとして活動させてもらいながら、参加者の行動を観察する。

【結果】実際に観察すると、森での行動が大人と子供で異なっていた。

○森の中での活動の大人と子供の違い

子ども	大人	＜森での活動についての分類＞		
<p><b>★森散策</b> 大人、友達と一緒に森の中を散歩。</p> <p><b>★虫取り</b> 虫取り網と虫かごを持参して森の中をひたすら走りまわっていた。</p> <p><b>★ものづくり</b> 森散策で手に入れた材料を用いて自分の好きなものを自由に工作していた。(工作に必要なナイフや接着剤などの工具は準備済みで使うときは大人に声をかける。)</p> <p><b>★薪割り</b> 剛腕君という誰でも簡単に薪を割れる機械を使って、3歳児でも薪割をすることが出来ていた。</p> <p><b>★友達と遊ぶ、話す</b> 初対面なども関係なく、子ども同士で森での時間を過ごしていた。</p> <p><b>★ごはんづくり</b> 森で採れた食材を使って大人の料理を手伝っていた。</p> <p><b>★ゆっくり過ごす</b> 森の中にあるハンモックや椅子、ブランコでゆっくり過ごす。</p>	<p><b>★本格的な森林保全活動</b> 草刈りや間伐、馬を使った丸太運びなど。</p> <p><b>★ゆっくり過ごす</b> 森の中にあるハンモックや椅子でコーヒーを飲みながらゆっくり過ごす。森の中で勉強をする学生もいた。</p> <p><b>★薪割り</b> 斧使ったり、剛腕君を使ったりして薪割りをしていた。</p> <p><b>★ものづくり</b> 森散策で手に入れた材料を用いて自分の好きなものを自由に工作していた。(子供より熟練する人もいた。)</p> <p><b>★ごはんづくり</b> 森で採れた食材を使った料理や家から持参した食材を使い、自分で火を起こして調理をしていた。</p> <p><b>★おしゃべり</b> 休憩しながら、作業をしながら、初対面でも関係なく会話をしていた。</p>	<p>1. 社交性(コミュニケーション) ・その場にいた子供同士、大人同士で会話をする。 ・何かするときに大人を頼る。 ・親が同伴ではない場合、ほかの子の親が面倒をみる。</p>	<p>2. 豊かな感受性 ・森を散歩しながら植物採集をする。 ・風が吹いたときや鳥が鳴いたときの音を聞いてリラックスできる。</p>	<p>3. 好奇心、チャレンジ精神 ・人に話しかける。 ・森で見つけたものを使ってものづくりをする。 ・木登り ・薪割り ・大人の手伝いをする</p>
		<p>4. 発想力 ・森の中にあるものを見て、「これ、〇〇に似てる!」という発見をする。 ・森で見つけたものを使い、ものづくりをする。</p>	<p>5. 大きな器 ・作ってみたものが他の人よりうまくできなかった。 ・自分ひとりじゃできないことを理解する。 ・森の中を走って転ぶ</p>	<p>6. 主体性 ・今日は何をするか、何ができるかを考える。 ・誰かと同じことをしてみる。</p>

【考察】

- ・森という空間で人が集まって何かをするときは、コミュニケーションが必ず生まれることに気付いた。
- ・子供たちの行動を観察している中で、虫や鳥の鳴き声や風が吹いたとき、落ち葉を踏んだときの「音」に反応する速度が大人より早いように感じた。また、自分が見たことのない植物や生き物を見つけた時にすぐ人に教えていた。これらのこともまた森が人に与えるイイ影響に関連していると考えられる。

- ・実際に観察すると、森での行動が大人と子供で異なっていた。
- ・大人より子供のほうが、制限が多いにもかかわらず、活動の幅が広がった。

## 検証企画の実施

【実施日時】2020年11月28日（土）

【目的】普段、森との関わりがない人に自分の探求について発表し、森に対する印象はどれだけ変わるかを検証する。

【方法】オンラインでのトークセッションを開催し、始めと終わりで森林に対する印象を聞き印象の変化を調査する。

【調査結果】

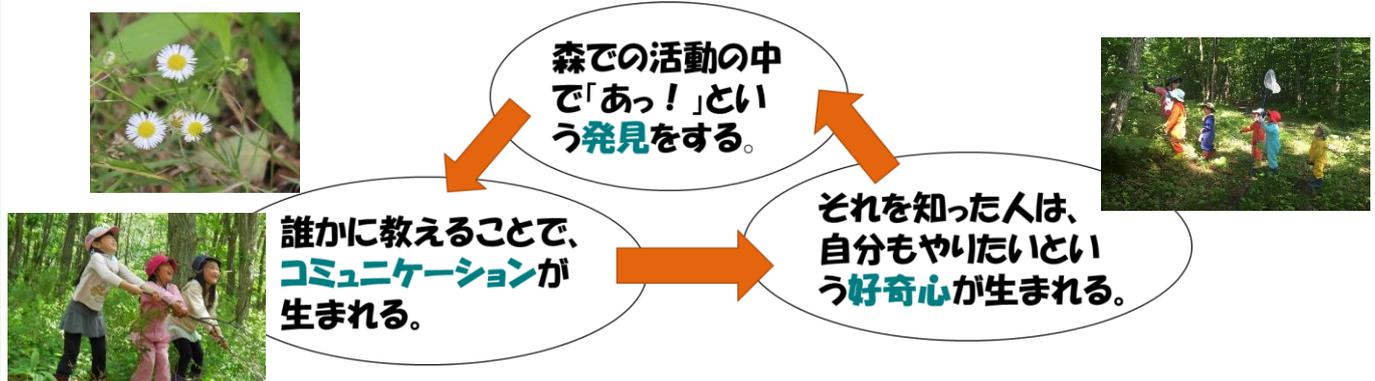
名前	高2 I.Hさん	高2 A.Oさん	高2 S.Aさん	高2 N.Rさん
最初	自然の中で活動するのはもともと好き。森林保全のためにできることは植林！	自分はアウトドア派だから自然の中で体を動かすのは気持ちよさそう。森林保全活動に参加してみたい。	森林保全のために私たちができることは、森に行かないこと。また、地球温暖化のために木は切らない方がいい！	ハチが嫌いで刺されるのが怖いから行きたくない。自分はアウトドア派だからできるだけ家にいたい。
最後	自然の中で活動することがどれだけ大きな成長に繋がるのかを知ることができた。さらに森に行って活動したくなった！	実際に体の健康面以外にもメンタルヘルスや人間性の育成に森が役立っていることに驚いた。人生で一回以上は参加したいと思う。	森林保全について間違っていた認識を改めることができた。また、森が人間性に与える影響があることを初めて知ることができた。自分も参加したい。	大人から子供まで世代を問わず参加できる森林保全活動に興味を持った。コミュニケーションをはじめとする人間性の育成ができるのはすごい。

【考察】

- ・少人数での実施だったため、一人一人に伝わるように話すことができた。
- ・結果としては4名全員の森に対する印象を変えることができたが、データとしては不十分。
- ・今後もこのような企画をして森に対する印象を変えていく必要がある。

## 気づいたこと

### 森の中で活動しているときによく見られた行動の中で成長に繋がるサイクル！！



## 今後について

- ① 森が人に与える良い影響について、簡単に理解することができるポスターをつくる
- ② 参加人数を増やしてトークセッションを行い、森についての印象をどんどん変えていく。
- ③ 大きなキーワードになるコミュニケーションについて学びを深めたい。また、森のコミュニティを日本全国に普及させたい。

この探究はまだ終わってない！今後も引き続き実施していく！！



# 地元のフードロス削減のために

## 動機

伊達野菜は、道の駅や農協で販売されている。しかし、規格外などの理由により、販売できない野菜はどうしているのか疑問に思ったから。

8月下旬に、コスモスさんの協力のもと、廃棄されてしまうじゃがいもとかぼちゃを使用した商品を開発することを伝え、販売できない2種類の野菜を安く分けて頂けるか電話した。

9月中旬に、コスモスさんと一緒に訪問して、小さすぎるものや大きすぎるもの、色が青くなったじゃがいもとかぼちゃを無料で譲り受けた。

FW先①三戸部農園さん：5月末に電話で質問した。

- ・親戚におすそ分けするものもある
- ・やむを得ず廃棄してしまうものもある
- ・収穫量が多い時期には廃棄する量が増えてしまう

FW先②パンの店コスモスさん

8月中旬に学校のキャリア課題探究活動として、廃棄野菜を使用した商品開発に協力してもらいたいと提案した。コスモスさんも、伊達の秋野菜を使用した商品を開発したいと考えていたため、前向きに受け入れてくれた。そこから、パンに向いているじゃがいもとかぼちゃを使用した商品を開発することが決まった。



## <FWの成果>

社会福祉法人伊達コスモス21の「パンの店コスモス」さん、三戸部農園さんに協力して頂いて、地元の廃棄されるじゃがいもとかぼちゃを使用した商品を4種類開発した。また、開発した商品を10月下旬に店頭で、1週間限定で販売した。最終日には、店頭で足を運んだ商品開発に当たって、実際に試作と仕込みに参加して商品化することができた。また、商品名や掲示用ポスターを作らせてもらった。

## <今後の展望>

伊達市内にある多くの農家さんに電話をかけて廃棄野菜の量や現状を調査し、インターネットに掲載されていない伊達市内の廃棄野菜の具体的なデータを把握したい。また、データをもとに新たなプロジェクトの計画をしていきたい。コスモスさんが第2弾にも積極的だったため、コスモスさんに協力して頂くことも考えている。



# 外出自粛中に 適度な運動で いい眠いをプロジェクト

## 【動機】

3月からの臨時休校期間で食べてばかりで  
体重が増加している人がいた。

→ **打開したい！！**

【体重増加の原因】  
運動量の低下  
ストレス  
美意識の低下など  
今回は**生活習慣の  
乱れ**に注目



中高生の約半数が  
通常的生活習慣が  
変化したと回答

## 【事例】

### 中之条研究

群馬県中之条町の65歳以上の男女5000人に  
生活習慣や食習慣、運動量をアンケート調査したもの  
→運動の仕方や時間に注目！

## 【中之条研究からわかったこと】

歩数	中強度の活動時間	予防できる病気
2000歩	0分	寝たきり
4000歩	5分	うつ病
5000歩	7.5分	要支援・要介護、認知症、心疾患、脳卒中
7000歩	15分	ガン、動脈硬化、骨粗しょう症、骨折
7500歩	17.5分	筋減少症、体力の低下
8000歩	20分	高血圧、糖尿病、脂質異常症、メタボ(75歳以上)
9000歩	25分	高血圧(正常高値血圧)、高血糖
10000歩	30分	メタボリックシンドローム(75歳未満)
12000歩	40分	肥満

12000歩(うち中強度の活動が40分)以上の運動は、健康を害することも…

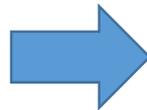


## 身近な「歩く」という行為が健康をもたらしてくれる



たくさん歩くからいいのではなく、適度に運動をすることが大事であることが分かる

【FW】  
○株式会社健康長寿研究所  
メールで質問を送付



すべて**一般論**で  
回答されてしまう

### 【今後の展望】

FW先を探しているが、自分の目的に合うFW先が見つけられていないので見つけたい。  
見つけ次第質問をメールで送信したいと思っている。